

日 時 令和7年9月25日（木）18時30分～19時30分

場 所 飛鳥会館

対象地区 町居

参加人数 9名

■要望、質疑応答

内 容
○市町村合併について （市民から） 尾上町、平賀町、碓ヶ関村の2町1村で合併したが、なぜ大鰐町を含めなかったのか。大鰐町の財政状況が原因なのか。そろそろ大鰐町も含めて合併してよいのではないか。将来的な展望はあるのか。 （市から） ・合併時は、市町村同士で慎重に協議しながら決定したものである。大鰐の財政状況が理由の1つとなった可能性は否めないが、実態としては影響がなかったと思われる。協議会の話など様々な事情があつての今の状況に至っていることをご理解いただきたい。国から合併について新たな方針があれば将来的な可能性はあるが、現状では予定していない。
○道路の拡幅について （市民から） 広船に向かう道路が狭いため拡幅をお願いしたい。以前、建設課にいったら、「予算がない。」と回答があつた。雪が降ればすれ違いで通ることが困難である。予算がないの一言で片付けてよいものか。土地の提供については、すでに所有者から同意を得ている。 （市から） ・現場を確認し、対応を検討したい。しかし、今年度だけで100件近くの道路に関する要望が届いている状況であり、財政状況を見ながらの対応となることをご了承いただきたい。 ・詳細な場所を後ほど確認させていただきたい。また、拡幅の場合、所有者の同意があつても、前後50mの方なども含めて協議を行い、計画を立てる必要がある。
○自治公民館会議の参加者増について （市民から） 2014年1月28日付けの東奥日報にて、長尾市長は「対話と実行」「透明性と発信力」「公正・公平」の三つの基本姿勢を軸とし、頑張っていくといった記事のとおり、10

年過ぎた今も、市長の頑張りが伝わっている。今回、勇退して若い人に譲るということで、今までの頑張りに感謝したい。

さて、公民館長をしている関係で、年3回自治公民館の会議が開催されており参加している。しかし、東学区は私と沖館地区の方のみが参加し、西学区は比較的参加しているため、もっと東と西でまんべんなく参加者が増えるように責任感をもって参加するようにしてほしい。

(市から)

- ・公民館活動を私も20代から行っていたが、自分たちの地域は自分たちで創っていく、といった意識を市民にもっていただきたい思いがあり、まちづくり懇談会などを実施してきた。コミュニティ活動は、西地区は、人口が極端に減少していないが、山手付近の住民は減ってきている事情もあるため、地域を思い自主防災意識も高めながら、自分たちでの地域づくりを実施していただきたいと考えている。
- ・年3回の会議であるが、東学区の参加者が少ないといったことを初めて耳にした。参加数が増えるよう、現場と協議していきたい。

○婚活支援について

(市民から)

人口がどんどん減少しており、平川市でも人口3万人を切って歯止めが利かないように感じる。どうすれば増加するか考えたときに、10年以上前はブームになっていた婚活パーティーを実施してはどうかと思う。商工会が市から80万円の助成を受け実施していたが、平川市になってからこのようなイベントを実施しているのか。また、子どもを増やすということで、外国人との婚姻を促進できないか。

(市から)

- ・平川市でも人口が減って今2万9千人程度だが、県全体で人口は減っている。以前単独でも婚活支援を実施していたが、単独でやるよりも広域でやった方が効果的であるということで、今は弘前圏域で実施している。また、県とも連携し、AIを活用した出会いサポートセンターを共同で運営して支援しているところである。
- ・西地区は、転入者が多く、調査したところ、市の子育て支援が充実しており、除雪も丁寧で、当市で子育てしたい世帯が多いことが判明した。市では2040年で人口が2万3千人を下回る予測がされているところを、2万5千人に維持できるよう減少率を低くしようと奮闘している状況である。そのため、今年度新たに組織したみらい戦略室で、食・農・観を複合させた事業や、インターチェンジの検討、新たな雇用を目指して進めているところである。
- ・国が地方創生を掲げてから10年経過している。子育て支援(ソフト事業)の成果としては、ある一定の世代の人口増が確認できた。しかし、18歳～20代前半の女性の転出が課題である。国も地方創生2.0を掲げ、若者を地方に残すために目標を掲げている。

若者に選ばれる市となるよう、新たな事業の選択、立案をしていきたい。

○子供への教育について

(市民から)

市外の人から、平川市は素晴らしいといった評価をよく伺う。市に感謝している。長い年月、地域に関わってきたが、新聞、TV等で痛ましい事故や事件を目にし、人口減少も含め、その原因は教育の仕方だと反省している。特に、大人が大人ではなくなっている印象であり、学校の先生も、子供を見守る、人を愛することができない人も多いのではないか。子供と教員、保護者間の信頼関係を築けないケースも増えてきている。不登校も多いので、教師という器を育てていく必要がある。せっかく不登校者が学校へ通えるように復活したとしても、担任次第では再発してしまう。人は愛されてきた分しか愛せないと感じるので、大人が子供に対して愛情を注げていけるようにしていきたいと思うが、そのための教育が少し足りないなと感じる。国や県の教育委員会、弘前との広域化や大学との連携など、何かシステムを考えて実施いただければと思う。

(市から)

- ・教育の問題はそれぞれの自治体だけでは難しいので、広域で検討していければと考える。人は愛されてきた分しか愛せないというお言葉は非常に心に残った。私も我が子に対して反省したい。

○町会活動について

(市民から)

町居町会の総会も集まりが悪い。2、30年前は結束力があつたが、現代社会はなかなか難しい状態であると感じている。町居地区は350世帯のうち、市のすこやか住宅支援補助金受給者が転入してくるため、若い世帯が増加しているが、世代間ギャップもあり、なかなか町会活動に参加していただけない。

少しでも町会で活動していることを考えて欲しいが、会費1万円を支払っているだけという考えがあるように感じる。どうすれば町会活動活性化につながるか意見を伺いたい。

(市から)

- ・現代は、団体活動が難しい時代であると感じる。そのため、1町会で難しいときは、2、3の町会、あるいは旧小学校の学区単位でやりましょと設立されたのが、西地区まちづくり委員会である。今は東部地区にも広がっているところであり、参考としていただきたい。
- ・自主防災組織はかなり増加して、ほとんどの町会で組織されている。また、国の補助金を活用し、7割の交付税で集会施設を整備しており、地域が一体となれるよう、今後も力を入れていきたい。

○集会施設の維持管理について

（市民から）

施設は大きくなるほど、維持管理が難しい。補修代を町会費で支出するのも、なかなか難しい。防災計画においては、施設は大きい方が使い勝手がよいとのことで、大きくした経緯がある。市の制度上、10万円以下の修繕等は町会負担であるがトイレのドアが壊れた、水道の不具合など、1件10万円以下の修繕でも、数が増えると高額になってしまう。1工事10万円までということではなく、総額含めての助成を検討いただけないか。

（市から）

・町会施設については、改修時、なるべく町会の意向どおりとなるよう協議している。市の現行の助成制度は「1工事ずつ」としているが、緊急性がないのであれば、例えばLED工事を昨年実施したときに合わせて実施するなど手段の1つである。まずは、建築住宅課に相談いただき、最適な方法を協議していきたい。